

[成果情報名] 長崎県の茶園に発生するクワシロカイガラムシの天敵種と薬剤の影響

[要約] 長崎県の茶園では、チビトビコバチ、サルメンツヤコバチ（仮称）などのクワシロカイガラムシの天敵種が見られる。サルメンツヤコバチ（仮称）はDMTP乳剤の影響が大きく、プロフェジン水和剤の影響は小さい。

[キーワード] チャ、クワシロカイガラムシ、チビトビコバチ、サルメンツヤコバチ（仮称）

[担当] 総合農林試験場・東彼杵茶業支場

[連絡先] 電話0957-46-0033、電子メールmorikawa1@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 茶部門

[分類] 研究

[背景・ねらい]

クワシロカイガラムシは、チャの樹冠内部の枝に介殻をかぶって寄生するため、防除適期がつかみにくい。また、散布薬液も虫体に届きにくいことから、チャの難防除害虫となっている。本種の防除を効率化するためには、防除適期の把握、薬剤散布法の改善、天敵の利用など効果的な防除技術を開発し、茶業経営の低コスト化を図り、環境保全に寄与する必要がある。

そこで、クワシロカイガラムシの天敵類の発生活長を明らかにする。さらに、一部の薬剤について、その影響を調査する。

[成果の内容・特徴]

- 1．長崎県の茶園におけるクワシロカイガラムシの天敵種は、主にチビトビコバチとサルメンツヤコバチ（仮称）である（図1、表1）。
- 2．サルメンツヤコバチ（仮称）は、クワシロカイガラムシ防除薬剤であるDMTP乳剤の影響が大きく、プロフェジン水和剤の影響は小さい。また、他害虫防除に使用するクロルフェナピル水和剤の影響が大きい（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．天敵類に影響の少ない農薬散布時期、散布薬剤の選択など、天敵を保護する防除法を検討する際に活用できる。
- 2．東彼杵茶業支場内（標高380～400m）での慣行防除園における調査結果であり、地域によって天敵種が異なると考えられるので別途調査の必要がある。

